

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が安心して暮らせ、また「希望進路実現・資格取得・高い規範意識の醸成」を達成することで社会に貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

- 1 平成 28 年度改編に向けた、幅広い学びのニーズに応える学校づくり（本校の特色をいかしたエンパワメントスクール(ES)創立のための準備）
(1) 他のエンパワメントスクールとの差異を明確にするための特色ある取組み
ア 「進学応援型」ES をめざすための準備
*「グループ学習」を英語授業の 30％((平成 26 年度は約 20％)、数学授業の 20％(平成 26 年度は約 10％)で導入
*タブレット端末を活用した授業(平成 26 年度は教員の約 10％が活用)について、27 年度以降活用する教員を毎年 10％ずつ拡大する。
*授業改善・学校改革のための視察や官制研修以外の研修参加者数(平成 26 年度は 28 名参加)を 27 年度以降も維持する。
*27 年度は、難関大学進学(平成 26 年度 3 名) 3 名、保育士・看護師・栄養士を標榜する短大進学(平成 26 年度 2 名) 4 名、看護師・リハビリ・レントゲン技師・柔道整復師・臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学(平成 26 年度 4 名) 5 名を達成し 28 年度以降各 1 名ずつ増加させる。
イ 優良企業就職実現のための取組み強化
*始業前学習(平成 26 年度は 1 年生のみで実施し 90％の生徒が参加)を 27 年度は 2 年生にも拡大し、1 年生・2 年生の参加率を各 90％・70％にする。28 年度には全学年で実施し、29 年度には、1・2・3 年生の参加率 各 95・85・85％をめざす。
*公開授業(平成 26 年度約 10 講座)を、27 年度以降毎年 50 講座行い、また全教員参加グループワーク型研究協議を年 2 回実施し継続する。
*生徒対象学校教育自己診断で、「授業がわかりやすい」回答(平成 26 年度は 52％)を 27 年度以降毎年 6％ずつ上昇させ 29 年度には 75％にする。
*進路未決定卒業生(平成 26 年度は 2.1％)を 27 年度以降維持する。
ウ 「資格取得型」ES をめざすための準備
*電気工事士資格取得者(平成 26 年度 2 名) 4 名をめざし、28 年度以降は毎年 2 名ずつ増加させる。
*英検 3 級・準 2 級取得生徒数(平成 26 年度 10 名) 及び漢検 3 級・準 2 級取得生徒数(平成 26 年度 6 名)を 27 年度以降毎年 20％ずつ増加させ、28 年度には 2 級合格もめざす。
エ エンパワメントスクールプロジェクトチーム(ESPT)を中心とした、他の ES との差異を明確化するための学校全体としての取組み
*工業系・商業系等も含め資格や検定の合格者(平成 26 年度はのべ 216 名)を 27 年度以降 10％ずつ上昇させる。
(2) 情報・宣伝活動強化による 28 年度入学者選抜志願倍率の上昇
*校長による中学校進路指導主事訪問(平成 26 年度 39 校)を強化し、27・28 年度は 50 校の進路指導主事または 3 年学年主任を訪問する。
*中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員・学習塾関係者向け学校説明会(平成 26 年度は生徒・保護者向け 8 回約 650 名、中学校教員・学習塾関係者向け各 1 回合計 50 名参加)を 27 年度は合計 14 回開催し、参加者 2 割増加を図る。
*B5 版 10 ページの広報用写真集(平成 26 年度実績なし)を製作し毎年度更新を図る。
*入学者選抜志願倍率(27 年度入学者選抜は、前後期合わせた平均倍率 1.79 倍)を平成 28 年度入学者選抜においても維持し継続する。
- 2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり
(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応
ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導
*配慮を要する中学 3 年生について、入学前からの連携(平成 26 年度 14 名)を毎年 5 名ずつ増し、29 年度には 30 名とする。
イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導
*新入生の登校改善状況(平成 26 年度入学生は、中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒のうち 89％が改善)を維持する。
*停学人数(平成 26 年度は前年度より 7％減少)を 27 年度以降毎年 10％ずつ減少させる。総停学日数(26 年度は前年度より 22％減少)を 27 年度以降毎年 10％ずつ減少させる。
(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化
ウ 学校生活を大切にさせるための取組み強化
*遅刻回数(平成 26 年度は前年度に比べ 63％減少)を 27 年度は 5％減少させそれを維持する。欠席日数(平成 26 年度は前年度に比べ 31％減)を平成 27 年度は 10％減少させ、それを維持する。
*アルバイト制限(平成 26 年度以前は制限設けず)
エ 部活動の活性化
*部活動紹介(平成 26 年度は 1 年生のみ対象)を全学年の生徒対象に実施するとともに、新入生全員の体験入部(平成 26 年度は 1 日)を 2 日間実施する。
*平成 27 年度は耐震工事によりグラウンド面積の 6 割が使用不可となるが、部活動加入率(平成 26 年度 56.6％)を減少させない。
オ 教職員にとっての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備
カ 支援コーディネータを核とした支援委員会とスクールカウンセラー、及びその下部組織としてのサポートチーム(配慮を要する生徒ごとに組織した、担任を中心とした小組織)の強化
*保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度(平成 26 年度は 84％)を 27 年度以降毎年 2％ずつ上昇させ 29 年度に 90％とする。
*生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答(平成 26 年度は 58％)を 27 年度以降毎年 7％ずつ上昇させ、29 年度に 80％にする。
*中退率維持（平成 26 年度は 2.7％）
- 3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり
(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり
ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携
イ 文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。
*文化祭・体育祭来場者数(平成 25 年度は 518 名)を平成 27 年度は 600 名とし、毎年 10％ずつ増加させる。

ウ	学校からの発信強化 *HP 等の更新等合計回数(平成 26 年度は合計 520 回)を 550 回とし、それを維持する。
(2)	地域に貢献できる学校づくり
エ	ボランティア活動の継続 *清掃奉仕等の地域ボランティア活動参加者のべ 200 名(26 年度数値不明)とし、28 年度以降維持する。
オ	地域に向けた「成城カルチャー講座」継続等 *受講人数(平成 26 年度は 13 名受講)を 27 年度は 20 名とし、それを維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 平成28年度改編に向けた、幅広い学びのニーズに応える学校づくり（本校の特色をいかしたエンパワメントスクール(ES)創立のための準備）	(1) 他のエンパワメントスクールとの差異を明確にするための特色ある取組み ア「進学応援型」ES をめざすための準備 イ 優良企業就職実現のための取組み強化 ウ 「資格取得型」ES をめざすための準備	(1) ア・英語と数学での「グループ学習」強化と英語教育の抜本的改革 ・タブレット端末等 ICT 機器を活用した授業の強化 ・ICT 等先進校視察・校外研修への積極的な参加推進 ・受験講習強化 ・大学、有用な資格取得を標榜する短大、有用な医療系専門学校への進学強化 イ 優良企業就職実現のための取組み強化 ・進路指導部主導型の就職指導強化 ・授業改善 ・1年生「産業社会と人間」を活用した数学「学び直し」学習及び2年生「総合的な学習の時間」での国語の語彙力強化の取組みの継続実施と28年度ES1年生モジュール授業への発展 ・始業前学習(8:25から10分間)の充実・拡大 ・「成城みらいプロジェクト」による授業改革の取組み ・「新人育成プロジェクト」による経験の少ない教員の教員力向上 ウ・資格取得の強化	ア・「グループ学習」を英語授業の30%(平成26年度約20%)、数学授業の20%(平成26年度は10%)で導入 ・タブレット端末を活用した授業の実施教員率20%(平成26年度10%) ・授業改善や学校改革のための視察及び官制研修以外の研修参加者数維持(平成26年度28名参加) ・難関大学進学3名(平成26年度3名)、保育士・看護師・栄養士をめざす短大進学4名(平成26年度2名)、看護師・リハビリ・レントゲン技師・柔道整復師・臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学5名(平成26年度4名) イ ・公開授業50講座で実施(平成26年度約10講座)、また全教員参加グループワーク型研究協議年2回実施 ・始業前学習を2年生にも拡大、1年生・2年生の参加率を各90%・70%にする(平成26年度は1年生のみで実施、90%の生徒が参加)。 ・生徒対象学校教育自己診断での「授業がわかりやすい」肯定率58%(平成26年度52%) ・進路未決定卒業生維持(平成26年度は2.1%) ウ・電気工事士合格4名(平成26年度2名)、英検3級・準2級合格12名(平成26年度10名)、漢検3級・準2級合格8名(平成26年度6名)、工業系・商業系等も含めた資格や検定合格者のべ225名(平成26年度はのべ216名)	

府立成城高等学校

	(2) 情報・宣伝活動強化による 28 年度入学者選抜志願倍率の上昇	(2) ・校長が先頭に立った広報活動 ・学校説明会・中学校教員と塾関係向け説明会充実 ・広報用写真集製作	(2) ・校長による中学校進路指導主事等訪問 50 校(平成 26 年度 39 校) ・中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員・学習塾関係者向け学校説明会合計 14 回開催、参加者 840 名(平成 26 年度は、生徒・保護者向け 8 回約 650 名参加見込、中学校教員・学習塾関係者向け各 1 回合計 50 名参加) ・B5 版 10 ページの広報用写真集の製作(平成 26 年度実績なし) ・入学者選抜志願倍率 1.79 倍維持(27 年度入学者選抜は、前後期合わせた平均倍率 1.79 倍)	
2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり	(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応 ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導 イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導 (2) 生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化 ウ 学校生活を大切にさせるための取り組み強化 エ 部活動の活性化 オ 教職員にとつての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備	(1) ア・配慮を要する中学 3 年生に関する中学校との連携充実 イ・不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう図る。 ・生徒の実態に即し、生徒指導内規とその運用についての改善を図る。 (2) ウ・遅刻・欠席減に向けた組織的な取り組みの継続 ・アルバイト制限(平成 26 年度以前は制限設けず) エ・入部を促す取り組みの継続と強化 オ・職場としての職員室の整理整頓(3S: 整理整頓清掃)、見通しのよい職員室(机上の本立て 2 段積み自粛) ・「安全な工場」のための整理整頓強化 ・校内美化強化 ・日常の指導や会話、校内放送などでの生徒への適切な対応強化 ・中退者を増やさない姿勢の継続	(1) ア・配慮を要する中学 3 年生について、入学前からの連携 19 名(平成 26 年度 14 名) イ・新入生の登校改善 89%維持(平成 26 年度入学生は、中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒のうち 89%が改善) ・停学人数 10%減(平成 26 年度は前年度より 7%減)、総停学日数 10%減(26 年度は前年度に比べ 22%減) (2) ウ・遅刻回数 5 %減(平成 26 年度は前年度に比べ 63%減)、欠席日数 10%減(平成 26 年度は前年度に比べ 31%減) エ・部活動紹介を全学年の生徒対象に実施(平成 26 年度は 1 年生のみに実施)、新入生全員の体験入部を 2 日間実施(平成 26 年度は 1 日のみ) ・平成 27 年度は耐震工事によりグラウンド面積の 6 割が使用不可となるが、部活動加入率 56.6%維持(平成 25 年度 56.6%) オ 評価指標なし ・保護者対象学校教育自己診断で学校に対する満足度 86%をめざす(平成 26 年度は 84%)。 ・生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」65%(平成 26 年度は 58%) ・中退率維持(平成 26 年度は 2.7%)	

3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり	(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携 イ 文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。 ウ 学校からの発信強化 (2) 地域に貢献できる学校づくり エ ボランティア活動の継続 オ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続等	(1) ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携 ・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・城東区役所・警察署との交流・連携の継続と強化 イ 文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。 ウ 学校からの発信強化 ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページ更新、地元自治会掲示板、地域の回覧板回数活用充実 (2) エ ボランティア活動の継続 ・硬式野球部・写真芸術部・バレーボール部等による清掃奉仕等の地域ボランティア活動の継続 オ・「成城カルチャー講座」の継続	(1) ア 評価指標なし イ・文化祭・体育祭来場者数 600 名をめざす(平成 25 年度は 518 名)。 ウ・更新等合計回数 550 回をめざす(平成 26 年度は合計約 520 回)。 (2) エ・清掃奉仕等の地域ボランティア活動参加者のべ 200 名(26 年度数値不明) オ・受講人数 20 名をめざす(平成 26 年度は 13 名受講)。	
--	--	---	--	--